

県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 平成29年12月15日発行（第9号）

授業改善の検証を中核とした学力向上に向けた取組

各学校におかれましては、「温かい学年・学級経営」を基盤とし、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進していただいていることに感謝申し上げます。

学校訪問では、「習得・活用・探究」のバランスを工夫した授業を心がけ、子供たちが問い続け、根拠や理由を明確にとらえた上で「なるほど」「わかった」「できた」という『納得解』が実感できる授業を多くの学校で見ることができました。

また、10月11日（水）に開催しました地区別学力向上研修会（教頭先生対象）においては、中学校区に分かれて話し合い、「学力診断のためのテスト」等に向けての短期目標を立てていただきました。各校とも学校間の連携を図りながら、計画的に進めていただいていることと思います。

学力向上に成果が見られる学校に共通する特徴として、次のことがあげられます。自校の状況についてチェックし、授業改善と学習内容の定着につなげましょう。

- 各種調査等の結果から見られる課題の原因を明確にして、学校全体で共通理解している。
- 学校としての施策を具体的に実行している。（学校全体で目指す授業スタイルの実現）
- 教職員全員が同じ目標に向かって、それぞれの役割を意識しながら取り組んでいる。
- 学校間の連携を強化するための具体的な取組が行われている。（小・小、小・中、中・中）
- 学校全体で計画的に学力向上の進捗状況を確認し、成果の検証を行い、常に改善に生かしている。

「学力診断のためのテスト」に向けた学習内容の確実な定着

茨城県教育委員会のホームページに過去の「学力診断のためのテスト」の分析結果から、児童生徒のつまずきについて、各教科ごとの「考察と対策」が掲載されています。先日、市町教育委員会を通して配付した「学力アップ問題Ⅶ」と併せて、始業前や放課後等を利用して補充学習に取り組みせることで、1月の「学力診断のためのテスト」に向け、児童生徒一人一人に各教科の学習内容を確実に定着させましょう。

＜ダウンロード先＞ 茨城県教育委員会ホームページ → 学校教育
→ 小中学校教育 → 学力診断のためのテスト → 考察と対策

学力向上推進プロジェクト事業に係る授業カブラッシュアップ研修授業発表会 ～研修したことを自校化して授業改善を図る～

11月に、学力向上推進プロジェクト事業に係る「授業カブラッシュアップ研修授業発表会」を開催しました。重点校・協力校それぞれの学校で自校の課題解決に向けて様々な取組が行われ、大きな成果が見られました。授業発表会での取組を参考にし、協議したことを自校化して授業改善を図りましょう。

なお、重点校の授業発表会の指導案と報告書は、教育情報ネットワーク上に掲載されていますので、校内研修等で積極的に御活用願います。

《重点校》結城市立結城小学校（国語科）11月1日（水）

4年生 単元名「ごんぎつね」
本時の目標：叙述を基に「最後の言葉」を考えることを通して、登場人物の心情の変化を捉えることができる。

6年生 単元名「海のいのち」
本時の目標：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を基に作品からのメッセージをまとめることができる。

◆ 自校の授業改善に生かしたいこと

- ① 「命」について単元の導入と学習した後で捉えたことを比べることにより、「命」の捉え方についての変容が明確になること
- ② 登場人物の心情の変化を捉えるためには、本文中の叙述を根拠とするとともに、本文中に書かれていないことについても児童が想像することができるように、場面と場面を関係付けて考えられるようにすること
- ③ 同じ考えをもつ人のグループ、異なる考えをもつ人のグループなど、目的に合わせてグループ編成をしまして交流することで、様々な視点から話し合いができ、自分の考えを深めることができること



【結城小学校 登場人物心情変化表】

《重点校》下妻市立下妻中学校（数学科）11月2日（木）

1年生 単元名「量の変化と比例、反比例」
 本時の目標：与えられた情報から必要な情報を選択し、比例関係を利用して、その結果から問題を解決することができる。

- ◆ 自校の授業改善に生かしたいこと
 - ① 学習課題を工夫することで生徒自身に問いをもたせること
 - ② 自分の考えを他者に伝える場面で大型のホワイトボードを使い、問題を解決する。グループでの話し合いを中心に、気付いたことを加筆し、考えをまとめる授業を展開すること
 - ③ 考えの根拠を明らかにするために生徒自身がホワイトボードに記述した内容【黒字】に、数学の用語を用いた説明を教師が加筆【赤字】することで価値付けを行うこと



【下妻中学校 グループでの話し合い】

《重点校》常総市立岡田小学校（算数科）11月7日（火）

4年生 単元名「変わり方」
 本時の目標：問題場面から見いだした二つの数量の関係を考察したり、その関係を一般化して表現したりすることができる。

5年生 単元名「割合」
 本時の目標：全体と部分の関係には、変わらない数「割合」が存在することを理解することができる。

- ◆ 自校の授業改善に生かしたいこと
 - ① 具体物の操作活動では限界を感じるような課題を設定することで、児童が自ら条件や場面を変えて発展的に考える授業を展開すること（4年生）
 - ② 連続量の特性を生かして割合を視覚的に捉え、長さで比べる場合と割合で比べる場合の違いを考察する活動を通して、児童が新しい概念を獲得する授業を展開すること（5年生）
 - ③ 「どうしてそう考えたの?」「～さんの考えの続きが言えますか?」など、理由や根拠を問う発問の工夫をすること



【岡田小学校 図と式を関連付けた板書】

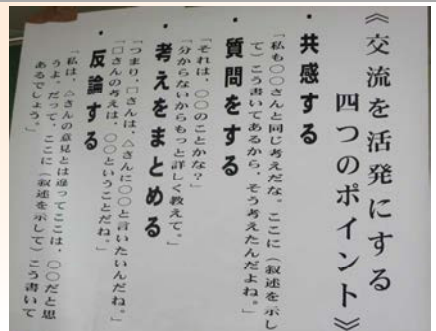
など、理由や根拠を問う発問の工夫をすること

《協力校》筑西市立新治小学校（国語科）11月8日（水）

3年生 単元名「サーカスのライオン」
 本時の目標：男の子と出会う前と出会った後のじんざの気持ちの変化とその理由を物語全体を通して捉えることができる。

6年生 単元名「海のいのち」
 本時の目標：「海のいのち」と「山のいのち」の二つの物語から自分が受け取ったメッセージを友達と交流する活動を通して、考えを広げたり深めたりすることができる。

- ◆ 自校の授業改善に生かしたいこと
 - ① 一人一人の初発の感想から単元を通して解決する学習課題を設定し、身に付けたい力を育てるための言語活動を位置付けること
 - ② 海のいのち、山のいのちの共通点や違いを伝えているのかなど、視点を明確にした活発な交流にするための4つのポイント（共感する、質問する、考えをまとめる、反論する）をもとに話し合いをすること



【新治小学校 交流のポイント】

《協力校》古河市立古河第七小学校（算数科）11月16日（木）

3年生 単元名「いろいろなわり算」
 本時の目標：あまりのある除法を適用し、問題場面に即してあまりの処理の仕方について説明することができる。

6年生 単元名「比例、反比例」
 本時の目標：比例の関係を活用して、身の回りの問題を効率よく解決することができる。

- ◆ 自校の授業改善に生かしたいこと
 - ① 条件不足の問題、比較する問題を提示し、児童が方法や解答の見通しをもつ授業を展開すること
 - ② 全体で共有する場面で発表し合った後に、既習事項を振り返り、本時のねらいについて、全員が理解できているかを確認すること

表を縦に見る
 あるコピー機の、コピーにかかった時間とコピーできた枚数

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	...
x (分)			3			6			9			...
枚数			120			240			360			...
y (枚)			120			240			360			...

Handwritten notes on the table:
 $3 \times \square = 120$
 $6 \times \square = 240$
 $9 \times \square = 360$
 □にはどれも90が入る
 $9 \div x = 90$
 $9 = 90 \times x$
 $9 = 90 \times 11$
 $9 = 990$
 ⑥ 440枚

【古河第七小学校 既習事項の掲示】

《協力校》五霞町立五霞中学校（国語科）11月30日（木）

1年生 単元名「具体的な例を挙げよう」
 本時の目標：目的や場面に応じ、相手に分かりやすく伝えるために順序立てた構成になるように工夫したメモを作成することができる。

2年生 単元名「説得力のある提案をしよう」
 本時の目標：相手に分かりやすく伝えるために、交流活動を通して、より説得力のある効果的な話の構成や資料の活用などの工夫をすることができる。

- ◆ 自校の授業改善に生かしたいこと
 - ① 全教科で協働的な学びを通して、どのように思考力・判断力・表現力を育てていくのか、具体的な手立てを構想図にまとめ、全職員で共通理解し、日々の授業に生かしていること
 - ② 話す時の声の大きさ、話の聞き方等のスキルに加え、相手に分かりやすく伝えるための構成や資料提示などの視点でメモを見直し、改善すること



【五霞中学校 目的を明確にした交流】